

肘水

射水神社社報 平成19年1月発行

第7号



ご挨拶

射水神社宮司 松本 正昭

清々しい丁亥の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申しあげます。

昨年の悠仁親王殿下のご誕生は、皇室のお慶びはもとより、国民にとりまして、洵に悦ばしく、謹んでお祝い申し上げる次第であります。

親王殿下のお健やかなご成長と皇室の弥栄を心よりご祈念申し上げます。

昨今、世上は、幼児虐待からはまり、挙句の果ては、わが児の命を簡単に奪い、又、学校教育の場に於いては、苛めから尊い若い命を自ら断つ悲劇が繰り返されている日本の現状は、家庭や学校、地域社会で改めて人としての根本的な命の尊さ、心の大切さを見直し、問い直し、「心の教育」の必要性を訴えるべき社会状況下にあります。

戦後、高度経済成長時代の、金さえあれば何でも買える、物の世界にのみ明け暮れた物質万能思想から、いまその逆襲を受けている現状であります。

豊かな心を育むための基本は、物を与えることではなく学校教育でもない、よりよい人間関係を確立することにあり、そのまた人間関係の基本は人の道を踏まえた温かい親子の関係を持つことであると信じます。親が子を慈しみ、子が親を敬い尊ぶという関係が、社会のあらゆる人間関係を望ましいものに育て、人の命の尊さを悟っていくのであると思うのです。

子を育てるといふことは大変なことであり、です。どなたも親になって覚えがあると思うのですが、子供は親に一言いわれて「はい」と聞く

ほど単純ではないのです。しかし親の言うことは聞かないけれども、親のすることはいつとはなしに真似するものです。「学ぶ」ということは「真似ぶ」に由来し、見よう見真似で学んでゆくものであります。ですが、後ろ姿で子供を導くと言えますが、われわれ自身、身に付いた値打を自覚する人は少ないのではないのでしょうか。その不足を補ってくださるのが神様であり、ご先祖さまであります。朝に一日、家族の平穏を神棚とご先祖に向かって祈り、夕べに一日、家族全員が平穏無事暮らすことが出来たことに感謝の真を捧げ、又、人からの贈り物をまず先にお供えし人の真心に感謝する姿を見て、子供は目に見えない貴重なものを学びとることだろうと思うのであります。こうして子供心に培われた心が、やがては思いやりのある心を育てることに繋がると思うのであります。

何時の世にも人の道について語られてきておりますが、殊に、明治二十三年に明治天皇様は、私たち国民の永遠不変の道徳教育の基礎をお示しになられ、教育勅語として国民にお下しになりました。長い歴史伝統から日本の風土に合った父子・兄弟・夫婦・友人間の倫理・謙遜・博愛・知徳の修得・道義的人格の形成・社会的義務の履行等、勅語にお示しになった大御心は、人として心を育む基本であり、私たちが歩むべく道しるべであります。戦前までは、学校教育の場で教えられてきたのでありますが、戦後、昭和二十三年、学校教育の場から消え、今日ではこの大事な御教えはすっかり忘れさられたが

由に、今の社会状況を生み出しているのであり、ます。今や大事な時代に直面しています。再び教育勅語を遵奉し、家庭や社会に伝え、祖先の御加護に答え、子孫の繁栄を祈りながら、国家の隆昌、世界平和向上のため、そして道徳的な良い社会づくりに努力しなければなりません。崇敬者各位には、この平成十九年が平穏で実りある年であり、こと祈念申し上げ、年頭所感といたします。



奉賛会報告

「秋の研修旅行」

村本 武史

秋色が日ましに深まる10月25日から26日にかけて行われました奉賛会の第一回神社参拝の旅に参加いたしました。松本正昭宮司ご同行のもと、神職・会員31名の皆さんがご一緒し、大変有意義でなかなか旅行となったと思います。

今回の旅行は、射水神社遷座百三十年祭記念事業が成功のうちにほぼ終了したのを期に、これからの神社護持活動の核と期待される奉賛会員の研修と親睦をかねて企画されたものです。

第一回目の旅行の舞台に選ばれたのは、信州安雲野・諏訪地方で、古来、神々への敬神の心が篤く、加えて日本的な観光地でもあります。

最初に訪れた穂高神社は古くから安雲野に鎮座し、延喜式神名帳に列記されている大社であり、海神系の宗族である安雲族の信仰の拠り所となってきたお社です。二日目の諏訪大社は信濃国の一宮で、神位は正一位、いうまでもなく全国の諏訪社の本宮です。今回参拝したのは諏訪大社四社のうちのひとつ、下社秋宮で、そ

の四隅にあつて御柱とあがめられる大木が祭られております。

両社とも正式参拝は、深厳なる拜殿で正座して行われ、厳肅さで身も心も清まる思いでした。それぞれの神社には地域住民の敬神の場として、また全国にその後神徳を広めてきた歴史を物語る多くの神社・民族・宗教資料が展示されており、また同時に観光拠点として地域に大きく貢献している様子でした。

私は今回の旅行を通じて、あらためて越中国一宮として栄えてきた射水神社の御神徳の偉大さに思いをいたし、御神威の向上に勤めなくてはならないと強く心に銘じたとこ

ろです。
なお、宿泊した上諏訪温泉の湯はすばらしい旅館で、一同和氣あいあいのうちに楽しい一夜を過ごすことができました。次回の旅行が楽しみです。



「射水神社奉賛会入会の勧め」

射水神社奉賛会は発足以来、神威の発揚・伝統文化の継承は本より、境内整備、特に遷座八十年祭・百年祭には記念事業に奉賛の誠を捧げてまいりました。今後においても、日本の伝統文化を喚起し、崇敬者の心のよりどころとして、更に御神徳発揚、神社活動に奉賛する旨のものであります。

このような本会の活動趣意にご理解を頂きまして、ご入会下さいますよう、ご案内いたします。

○会費 年額

個人会費 三千元以上
法人会費 五千元以上

○待遇

・会員の芳名は簿冊に記録し、御本殿内に納め置きます。

・毎月の朔日祭(一日)・月次祭(二十三日)斎行の際、会員各位の家内安全・生業繁栄を祈願致します。

・大祭毎に参列のご案内を致します。

・個人会員には、六月の夏越大祓・年末の師走大祓等のご案内を致します。

・年末に射水神社御神符並びに、特別千支絵馬をお届けします。

・社報(年二回)をお届け致します。

・研修会等の参集殿のご利用に便宜をお計り致します。

・会員証をお送り致します。

○事務局

高岡市古城一番一号 射水神社々務所内
電話 〇七六六(二二) 三一〇四

記念事業奉賛者御礼

式年大祭記念事業奉賛者名簿

平成18年12月1日現在

当神社の御祭神「二上神」の神名は、続日本紀によりますと、天武天皇3年奉幣に与つたことが記録に見えます。そこより起算し、昨年は鎮座1330年、あわせ明治8年、元の鎮座地二上の地から離れ、高岡城本丸跡地に遷座されて以来1300年を迎え、奉賛会及び崇敬各位の御協力の基、厳肅に式年大祭が斎行できましたことは、この上ない喜びであります。

この度の式年大祭に当たり、奉賛会の趣意のもと、日々に詣で易く親しみ易い心の拠所となるべき拝殿増改築が計画され、奉賛会・崇敬者各位の絶大なる御奉賛により竣工することができました。

この上は唯一身に具有する精魂を傾けて世の平らぎ捧げることがが神意に副い、すめみまの大御心を靖んじ奉る更なる役務と存じます。

常日頃、崇敬各位におかれましては、当神社のことにつきましてご協力賜り、その上に、この度の記念事業に多大な奉賛を賜っていますことを深く感謝申しあげる次第であります。

射水神社 宮司 松本 正昭

本年9月16日の吉辰に、鎮座1330年・遷座1300年の御縁年を期し執り行つてまいりました、式年大祭記念事業の、竣工慶賀祭を迎えることができました。

射水神社は、地元高岡に鎮座する神社ですが、県内唯一の名神大社と崇められる、国家にとりまして重要な祈りの場でもありました。

この様な歴史を有する射水神社は、越中の国はさることながら、我が国の伝統・文化を守り続けてきた、日本人の心そのものであると考えます。

茲に記念事業の竣工を寿ぎ、射水神社がこれから先も「美しい祖国」そして「日本人の心」を、後世に正しく伝える拠点となりますよう御祈念申し上げ、末筆ながら記念事業に携わりました関係各位に対する、御礼のご挨拶に代えさせていただきます。

射水神社奉賛会 会長 綿貫 武

射水神社役員・奉賛会役員

- ・綿貫 武 寺崎 敏夫
- ・谷道 巖 村本 武史
- ・島 憲誠 菅野 淳一
- ・荻布 精一 穴田 基朗
- ・中村 弘 林 松夫
- ・佐武峻三久 松本 純一
- ・立野井富二 田井 佳夫
- ・渡辺 守人 山達 是人

三百万円

- ・匿名希望

百万円

- ・高岡信用金庫
- ・向山 耕司
- ・匿名

五十万円

- ・高岡銀行協会
- ・丸果(株)高岡青果市場
- ・塩谷建設(株)
- ・(株)ミヤシゲ
- ・北陸アルミニウム(株)
- ・北日本新聞社
- ・トナミ運輸(株)
- ・(株)タカギセイコー
- ・田井 緑 田井 ひさ
- ・北村 良計

三十万円

- ・(株)北翔
- ・(株)島屋
- ・(株)井上誠昌堂
- ・(株)高岡水産物市場
- ・高岡冷蔵(株)

・(有)フレッシュ佐武

- ・カマタニ印刷
- ・医療法人社団 誠林会
- ・八田医院
- ・新日軽(株)北陸製造所
- ・(株)開進堂
- ・海王交通(株)
- ・広島公認会計士事務所
- ・高岡地方交通(株)
- ・三協立山アルミ(株)
- ・北日本放送(株)
- ・向山 和子 荻布 善亮

二十五万円

- ・ふじ美容室
- ・(株)花金
- ・上野写真館
- ・(株)中尾清月堂
- ・(株)ブライダルコアあなだ
- ・(有)宮一
- ・(株)正三商店
- ・(株)ひまわり
- ・(有)橘楼

二十万円

- ・荻布漁業生産組合
- ・黒谷美術(株)
- ・荻布倉庫株式会社
- ・医療法人明心会
- ・高岡ガス(株)
- ・金森産業(株)
- ・多田薬品工業(株)
- ・和田鉄工建設(株)
- ・高陵タクシー(株)
- ・高岡市農業協同組合
- ・(株)トマック
- ・渡辺正光税理士事務所

・第一物産(株)

- ・株大和高岡店
- ・吉岡隆一郎 金森 賢二
- ・林 九谷屋
- ・株大野屋
- ・株北陸建材社

十五万円

十万円

- ・(有)佐野金庫板金工業
- ・荻布船舶(株)
- ・株トヤマ水産
- ・株織田幸銅器
- ・株ヨシケイ富山
- ・株サンボン
- ・高岡ホンダ自販(株)
- ・(有)広又蒲鉾店
- ・山田酒店
- ・(株)竹内乾物
- ・株室屋
- ・富山テレビ放送(株)
- ・株高岡ガスサービス
- ・山与(株)
- ・株神島リビング
- ・(有)西川構装社
- ・菱富食品工業(株)
- ・西村工業(株)
- ・株若野鑄造所
- ・株老子製作所
- ・サンエツ金属(株)
- ・サクラバックス(株)
- ・北陸コカコーラボトルینگ(株)
- ・シーケー金属(株)
- ・株竹中製作所
- ・(有)アールスタッフ
- ・日東製網(株)高岡工場

- ・グリーン産商(株)
- ・大越仏壇(有)
- ・北一(株)
- ・タナベ自動車販売(株)
- ・福光不動産(株)
- ・キラ印刷(株)
- ・(株)サンテンコーボレーション
- ・寺崎工業(株)
- ・井上機材(株)
- ・(株)カジメイク
- ・高の宮医院
- ・新保軽金属工業(株)
- ・(株)本保
- ・(株)ヒヨシ工業
- ・立山電化工業(株)
- ・砺波工業(株)
- ・サカ斗産業(株)
- ・伏木海陸運送(株)
- ・(有) ビジネスイン高岡
- ・山岡石材工業(株)
- ・(株)豆川自動車
- ・(有)きたの
- ・高岡金網(株)
- ・(株)嶋安
- ・(株)平和合金
- ・(有)丸栄黒川仏壇
- ・宮 利秋
- ・川端 茂・久美子
- ・加藤 拓・かよ子
- ・小松 和子
- ・市堰 英之
- ・国分 茂昭
- ・油谷 弥平
- ・八塚 庄杜
- ・北村 麗子

六万円

- ・(株)秋江
- ・日本海自動車工業(株)
- ・第一ファインケミカル(株)

九万円

- ・(株)ミヤワキ建設

五万円

- ・天野屋蒲鉾店
- ・(株)えびすしまた
- ・(有) 中村漆器店
- ・日本曹達(株)高岡工場
- ・(株)稗田緑化
- ・オダケホーム(株)

- ・寺崎運輸(株)

- ・デジタルタカオカ

- ・蓬米のし店

- ・(株)カイハツ

- ・藤井クリーニング店

- ・(有)江守紙商店

- ・富山エフエム放送(株)

- ・(株)大坪

- ・嶋津(株)

- ・弘益建築設計事務所

- ・S T C ビデオ企画

- ・(有) ショー・ワン

- ・高岡市弓道連盟

- ・新林証券(株)高岡営業所

- ・嶋 安生

- ・藤川 勝喜

- ・久々江 純

- ・中川 貢

- ・炭谷 一彦

- ・熊谷 三郎

- ・岡本清右衛門

- ・(有)アーバングリーン越州

- ・熊谷(株)

- ・(株)サイゴ堂

- ・(株)金興産業

- ・(有)チャンスメーカー

- ・(有)正村

- ・高岡魚商組合

- ・富山県呉西魚商業協同組合

- ・(合)泉八右衛門商店

- ・(有)宮澤建設

- ・頭川証券(株)
- ・高岡通運(株)
- ・富山県西部青果食品協同組合
- ・(有)清都酒造場
- ・堀井建設(株)
- ・(株)神路社
- ・富山トヨタ自動車(株)
- ・日本海酒販(株)
- ・(株)菅原敬兵衛商店
- ・(株)四津井
- ・協和紙工業(株)
- ・磯貝装束店
- ・(株)大樹
- ・(株)とぎや
- ・塩崎商街(株)
- ・棚田印刷
- ・(株)創建築事務所
- ・(株)大祐
- ・(有)三立工業所
- ・高岡信用金庫
- ・大佛旅館
- ・カネボウ製薬(株)高岡工場
- ・(株)三愛工芸
- ・(株)ダスキン高岡
- ・富源商事(株)
- ・富山製紙(株)
- ・日本海産商(株)
- ・(株)関菊
- ・志貴野金属工業(株)
- ・北陸電気工事(株)高岡支店
- ・サカエ金蘭(株)
- ・富山日産(株)高岡支店
- ・(株)たかさか
- ・(株)とさ
- ・(株)金栄
- ・読売新聞 東京本社
- ・くにもと
- ・(株)藤田銅器製作所
- ・(株)永田メディカル
- ・財団法人北陸予防医学協会
- ・北陸支社

二万円

- ・(株)テック企画
- ・北陸電力(株)
- ・三和運輸(株)
- ・(有)中川自工
- ・麻善蒲鉾(有)
- ・今村蒲鉾(有)
- ・新保蒲鉾店
- ・角彦かまぼこ店
- ・日本ゼオン(株)高岡工場
- ・J B T 東海(株)高岡支店
- ・陶山 泰史
- ・小杉 義一
- ・青木 義信
- ・石黒 輝義
- ・竹中 志行
- ・広野 吉隆
- ・新谷 欣四
- ・山田 勝久
- ・水上 武雄
- ・戸井 貢
- ・原 秀雄
- ・四柳 信一

- ・マルエイバック

- ・(株)今川雄毅店

- ・コニカミノルタフォトソリューションズ

- ・北陸支店

- ・(有)前崎養鶏

- ・高岡紙器印刷(株)

- ・(有)高岡商会

- ・宮岡伸忠商店(株)

- ・高田 政公

- ・原田 孝

- ・藤田順吉朗

- ・茂井興史男

- ・掛川原恵子

- ・板谷 敏男

- ・玉井 幸雄

- ・内記 芳男

- ・河原 博巳

- ・保

- ・辻

- ・保

- ・保

- ・保

一万円

- ・能崎物産(株)
- ・北陸砂糖(株) 高岡支店
- ・桐の館
- ・サンシステム高岡支店
- ・横川家具店
- ・新日本工芸(株)
- ・広小路自治会

- ・広小路公民館
- ・室谷 英之
- ・見村 金治
- ・新田孝次郎
- ・江川 正純
- ・吉岡 敏治
- ・大谷内 勇
- ・山田 浩士
- ・開田外次郎
- ・波多野登美子
- ・松沢 天楓
- ・中嶋 榮昭
- ・高田 敏夫
- ・永原 恒治
- ・高木 孝昭
- ・柴田真由美
- ・中山弥八郎
- ・前辻伊勢夫
- ・山本 義昭
- ・坂野 勉吉
- ・堀 信彦
- ・石橋 正幸
- ・橘 一憲
- ・田林 眞澄
- ・佐賀 慶一
- ・上杉 武吉
- ・藤原 貞夫
- ・立野 フサ
- ・中條八一朗
- ・ナカムラカズイチ
- ・蓑口 正昭
- ・西野 俊夫
- ・田中 昭子
- ・澤崎 俊二
- ・田中 清
- ・山田 通之
- ・山田 泰三
- ・林 信宏
- ・大井山行雄
- ・島村 和江
- ・一原 幸宏
- ・永原 恒夫
- ・宮浦 実
- ・大坪 正芳
- ・佐藤 孝志
- ・黒越 一夫
- ・太田 陽子
- ・橋本 隆
- ・高田 昭清
- ・谷口 正
- ・岩田 輝道
- ・杉本 彰夫
- ・杉本 信子
- ・稲垣 俊夫
- ・上杉 禮子
- ・内島 年枝
- ・大居 光高

鎮座1330年 記念事業計画
遷座130年

【事業内容】

外拝殿の移設・拝殿拡張
授与所、神饌所の増設
三力年計画

平成十七年九月

平成十九年八月末日まで

記念事業 報告



拝殿移動後は地固めなどの基礎工事を数週間に渡り行い、終了と同時にレールに載せ、再度設置しました。



従来の拝殿を若干前方に迫り出し、拝殿自体を広く致しました。



拝殿の移動により、平素より風雨をしのぎ心静かに
お参りできる拝殿となりました。



まず作業便宜のため、既存の拝殿をつり上げ、適宜
場所を移動する準備をいたしました。



つり上げた拝殿はレールに載せ、前方に約30メー
トル移動致しました。





拝殿は従来比1・5倍の広さを確保いたしました。年頭の祈願祭や七五三詣でなどの拝殿混雑時の緩和を目指しました。

新拝殿の紹介



授与所・祈祷受付所の前にスペースを設け、小さなお子様連れの方にも安心して受け付けいただけます。



車椅子や高齢の方々にも安心して御参拝いただけますよう、スロープへのアプローチを設けました。



御祈禱案内

個人祈禱

大厄 たいやく

男 四十二歳
 前厄 昭和四十二年生
 本厄 昭和四十一年生
 後厄 昭和四十年生
女 三十三歳
 前厄 昭和五十一年生
 本厄 昭和五十年生
 後厄 昭和四十九年生

厄 やく

男 二十五歳
 前厄 昭和五十九年生
 本厄 昭和五十八年生
 後厄 昭和五十七年生
女 十九歳
 前厄 平成二年生
 本厄 平成元年生
 後厄 昭和六十三年生

厄 やく

男 六十一歳
 本厄 昭和二十二年生
 右記の年齢を厄年とする地域もあります。
女 三十七歳
 本厄 昭和四十六年生
 右記の年齢を厄年とする地域もあります。

身祝 みいわい

元服祝 げんぷくいわい
 平成五年
 髪上げ祝い かみあげいわい
 髮上祝
 平成七年

家内安全祈禱
 合格祈禱
 その他諸祈禱
 初穂料 **五千元**
 より志
 但し厄被・祝
 い事祈禱はお
 酒・鏡餅等をお
 供え下さい。

団体参拝

職場安全・商売繁盛祈願
 初穂料 **二万円より志**
 お供え物 お酒
 ※事前にご予約ください

祝事 (男女)

還暦 かんれき 六十一歳 昭和二十二年生
古稀 こき 七十歳 昭和十三年生
喜寿 きじゅ 七十七歳 昭和六年生
傘寿 さんじゅ 八十歳 昭和三年生
米寿 まいじゅ 八十八歳 大正九年生
卒寿 そつじゅ 九十歳 大正七年生
白寿 はくじゅ 九十九歳 明治四十二年生

○祈禱受付時間 一日 午前0時～午後5時 2日以降 午前9時～午後5時
 ○お問い合わせ 射水神社々務所 電話 (0766) 22-3104

神前結婚式

御神恩をいただき、幸おおからん事を。

平成18年6月挙式の方々

根木 俊彦・綾子
武田 和仁・マリセル
加藤 聡志・亜紀

7月挙式の方々

須田 稔彦・環
村井 康純・加代子
東 貴裕・葵
青島 健一・寿美
神代 賢一・景子
山元 貴範・千秋

9月挙式の方々

尾山 雅紀・名尾理
澤 雅直・ひとみ
金谷 和彦・小百合
前田 浩規・郁子
大越 忍・蓉
湊 隆幸・直子
尾山 恭弘・美佳
谷口 正一・優子
吉井 祐一・望
大西 哲憲・裕子
藤田 和也・美沙子

10月挙式の方々

宮本 隆人・早苗
林 友三・素子
浅村 光晴・尚子
本郷 徳志・聖子
内田 満夫・順子
藤川 貴朗・理恵
沖田 智吾・亜希
北 敦・智恵
三富 和之・望美
吉田 明弘・朝美
専徒 順一・紀子
小西 敏史・由美
小泉 英昭・キャトリン
松任 秀剛・郁子
元井 英樹・利佐
湯浅 和宏・桃子
坂東 満・結花
喜多 真治・優子
姿 威雄・友美
中田 晶士・知美
宮崎 岳志・めぐみ
山達 慎吾・寿美

ホビガートーマス・理恵子

11月挙式の方々

川淵 貴史・和美
塚本 健作・輝子
上杉 誠二郎・いづみ
古旗 公統・雅代
岡田 毅範・秋恵
釣 克光・由香理
清水 克城・直子
清高 島真・ゆう子
布目 隆一・優子
改井 康隆・直子
二上 茂治・陽子
大能 和人・亜弓
吉永 正・沙織
大庭 賢二・さやか
中島 健治・君枝
小倉 勇治・真由美
上田 健雄・晃子
西海 亮寿・千絵
國澤 資和・尚子
河口 誠司・宏恵

平成18年6月～平成18年11月挙式の方々

お守りの紹介

平成十九年元日より、新たに「結び守」を頒布いたします。

「つつくしの杜」 往古より縁結びの神として親しまれてきた当社には、そのお力を借りようと、年間多数の参拝者より、問い合わせがあります。

そこで本年より、運命の赤い糸を現在実感しているお二人はもちろんこれから運命の赤い糸を手繰り寄せたいと願う方。それぞれに射水の大神様の御神恩を賜れますように「結び守」を謹製いたしました。恋に悩む。そして恋を守るすべての方々に、等しく幸福が訪れますよう、ご祈念いたします。

頒布価格

八百円



■人事
《新任》
事務員 宮崎雅子
平成十八年十二月一日
■ご奉納
九月十六日 樹木(檜)一本
奉納者 板坂吉雄 様



越中の食彩

高岡市農業協同組合
代表理事組合長

穴田 甚朗

お米の話①

先進国で最低水準のわが国の食糧自給率は一向に改善する気配はありません。

平成17年度のわが国の食糧自給率は供給熱量（カロリー）ベースで8年連続して40%となりましたが、昭和40年には自給率は73%でしたから、その後一貫して低下を続け今日のような状況となりました。

諸外国に目を転ずれば、米国は122%、フランスは121%、ドイツは99%、イギリスでも61%の食糧自給率であり、わが国は先進国では例を見ない水準であります。

欧米型の食生活の普及による米の消費減に加え、国内産農産物の価格競争力の低下、飼料をほとんど輸入に頼る肉類の増加、麦や大豆など輸入依存度の高まりが主因であるとしております。

このようなことを踏まえ、政府は食料安全保障の観点から新たな食

料・農業・農村基本計画の中で食糧自給率を10年以内に45%に引き上げる目標を立てました。世界の食糧需給については、今後一層不安定さを増すとの予測もあり、多くの食料を輸入によつて賄っているわが国においては、食料自給力を強化し、自給率向上をはかることが喫緊の課題であります。

伊勢の神宮に供える野菜



写真 神社新報社

神道

いろは

毎年喜れになると

お神札を新しく替えるのは

なぜですか？

新しい年を迎えるにあたり、神棚をきれいに清掃して、新たに神社から受けたお神札を神棚にお祀りします。

神社から受けるお神札には、伊勢の神宮のお神札である神宮大麻、氏神様のお神札、台所にお祀りする竈神様のお神札などがあります。年の区切りにあたるこの時期に、神社から新しいお神札を受けることにより、御神霊の力、恩顧を戴き、新しい年も家内が無事であるように祈念しお祀りします。

今までお祀りしていた古いお神札は、過去の一年が無事過ごせたことを感謝し、神社にお礼参りをして納めます。このお神札は神社でお焚き上げされます。このお焚き上げを地域によつては左義長やどんど焼きと

称しています。

我が国には古来、親から子、子から孫へと、脈々と続く生命の繋がりや尊び、これを発展的に未来へ受け継ぐという考え方があります。こうしたことは、例えば伊勢の神宮でも、二十年ごとに社殿を造り替え、大神様に新しいお社にお遷り戴く式年遷宮が古来連綿とおこなわれていきますし、その他の神社でも社殿を新造することにより、さらなる御神威の発揚が図られてきました。

私たちが毎年、神棚のお神札を新しくするのも、まさにこうした考え方によることなのです。



神社新報社刊「神道いろは」より

『ふるさと 射水神社』

⑦家持とその時代

高岡市に縁が深い大伴家持の、生年については諸説あるが、現代においては養老二年（718）説が通説となっており、内舍人・宮内少輔などを経て天平十八年六月に越中守に任命され、七月には高岡へ赴任している。

家持の越中守任命は、所謂「左遷」ではなく、むしろ充実した五年間をおくったと考えられる。まつろわぬ蛮族を討つ、朝廷最前線基地の若き司令長官として活躍した時代である。この事は歌を詠む心の余裕という物差しで推し量れば、『万葉集』所収の半数弱を越中守時代に詠んでいるという数量の面。また天平勝宝三年（751）には少納言にて帰京するのだが、東大寺の廬舎那大仏開眼会では、少納言であつた家持も参列したと考えられるが、『万葉集』では自身の歌はおろか、関係する歌も伝えら

れていないこと。などからも憶測できる。帰京当時の歌三首を紹介する。

春の野に

霞たなびき うら悲し

この夕かげに鶯鳴くも

わが宿の

いささ群竹 吹く風の

音のかそけき この夕かも

うらうらに 照れる春日に

雲雀あがり こころ悲しも

一人し思へば

家持の帰京を待ち受けていた、橘諸兄の政敵、藤原仲麻呂の台頭は、諸兄と近い関係にある家持にとっては、時代の変化を痛感させ、かつ政治家・大伴家持の限界を感じさせる出来事であつた。

『万葉集』は天平宝字三年（759）正月の因幡守・大伴家持の国庁の賀歌をもつて閉じられるが、その後の家持は、延暦元年（782）水上川継の謀反

事件に連座し解任。同年五月に復職。同三年七月（784）時節征東將軍となるも、翌八月、從三位中納言で没する（享年六十八歳）また死後においても翌九月藤原種継暗殺事件がおき、これに連座し除名処分をうける事となる。※延暦二十四年（806）三月復職

政治家としては決して恵まれなかつた大伴家持。射水神社の神名備山である二上山の山裾にいたかれ、仕事に恋に情熱を燃やした若き日の歌は、今も高岡の町を文化の香りで包み込んでいる。



万葉集研究の拠点 高岡市万葉歴史館
(写真提供・同館)

編集後記

お陰をもちまして、式年大祭奉祝の記念事業も無事完遂することができました。ご奉賛たまりました崇敬者をはじめ関係各位に対し、御礼申し上げる所でございます。

表紙の写真は、雪化粧の二上山でございます。

記念事業の工事は夏の真つ盛りに執り行われましたが、一番の問題になりましたのは「雪」への対策でありました。

参拝客が安全に、かつ気軽に参拝できますように。というコンセプトから雪の重量を考え、拝殿には一抱えもあるほどの柱を数本入れ、万全を期した所でございます。施工者の説明によると、この柱は白川郷の合掌造りに使う如き柱であるとのこと、材料としてその柱を目の当たりにしたときの安心感は、合掌造りをはじめ、現代の我々にとくらべることで、現代の我々にとくらべることで、現代の生活と技術・文化が不可分な関係にあることを改めて感じた次第であります。

発行 射水神社

発行所 〒931-0044 高岡市古城一

TEL (0766) 221-1304

FAX (0766) 221-3715

印刷所 キク印刷株式会社



神前より神酒を分かち賜る儀式です。



神
酒
拝
戴

はい
たい

参
集
殿
通
信



—うつくしの杜ブライダルフェアのご案内—

Utsukushi no mori Marriage story



IMIZU JINJYA

お色直しでお父様と中座 平成18年9月挙式

ブライダルフェア

平成19年2月18日(日) 12:00 ~ 19:00

模擬挙式／模擬披露宴／コーディネイトショー／
ケーキ試食

プチブライダルフェア(予定)

平成19年4月8日(日) 10:00 ~ 19:00

模擬挙式／トワイライトウエディング
会場コーディネイト展示／婚礼料理試食会

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問合せ (0766) **22-0808**

URL ■ <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール ■ jinja-k@mbs.sphere.ne.jp